

- 勝山市の高齢者に対する施策について
- こども会館建設について

その他の質問
・ 勝山市の根本的な雪害対策について



市議会 丸山忠男 議員



議 勝山地区老人会と水上市長との語る会が今年の3月27日、教育会館3階会議室において開催され、地区老人会が現在抱えている問題点や課題について話し合いが行われた。減少しつつある老人クラブ対策について担当課の見解を伺う。

理 勝山地区老人会連合会との語る会において、様々な意見交換を行うことができ、大変貴重な時間となった。その中で、老人クラブ等社会参加促進事業補助金の交付対象に関する御意見をいただいた。令和6年度からは事業を拡充し、10人以上30人未満のクラブと市高齢者連合会未加入クラブも交付対象となったので、クラブの増加や活動の活性化に期待したい。

またクラブ数増加のための施策として、高齢者が活動に参加しやすい環境づくりも重要と考えている。すこやかやまちづくり会館等既存施設での体操教室等の実施や、民間の商業施設等を利用した集いの場がある。市としても、高齢者の方が喜んで集えるような場づくりについて研究してまいりたい。

議 水上市長は、令和4年の12月市議会の招集挨拶において市教育会館に、屋内遊び場を新設し、こども会館(仮称)化を目的に改修を進めていく方針を示された。中央公園再整備等と共に一体的に行っていくと表明されたが、あれから2年が経過しようとしている。改めて市長の見解をお聞きたい。

理 こども会館については、こども政策をハード面から支える重要施策と考えており、教育会館の一部に全天候型遊戯場を設置し、隣接する中央公園との一体的活用を目指した再整備を予定している。理由として、教育会館にはこども家庭センターを設置し、子育て相談や保育環境の充実に取り組んでいること、教育総務課やこども課の持つ充実した支援機能、相談機能を活かすことが可能になること、教育会館周辺に幅広い世代の市民の方が日常的に利用する施設が集積していること、国の補助金を活用できること等がある。他事業との関係で先送りしているが、しっかりと進めてまいりたい。

- 勝山市の今後の施策について
- 各種のイベントについて

その他の質問
・ 観光行政について
・ 公共施設の開館時間について



市議会 帰山寿憲 議員



議 水上市政1期目の実績は十分であるが、多くの施策はさらなる推進と継続が求められる。今後も施策が継続されるべきと考えるが、水上市長の2期目に対してのお考えを伺う。

理 今後の施策について、令和8年春に開校する県立大学恐竜学部勝山キャンパスと市教育施設との連携、中部縦貫自動車道県内全線開通に向けた誘客対策、長尾山総合公園への宿泊遊戯施設等の開業、人口減少下における地域コミュニティの維持、市内全域へのフルデマンドバスの導入、教育会館への屋内遊戯場の整備、給付型の奨学金制度の創設、中央公園のこども公園への改修、勝山中学校開校に向けた準備や跡地の利活用、まちづくり会館の防災機能の強化、農林水産業収益化への支援、18歳までの総合的な支援等、様々な夢と課題が山積している。

勝山市の未来を見据えたグランドデザインを描き、市議会の皆様との協議を重ねて市民の皆様とともに夢を実現したい。新しい勝山、楽しい笑顔のまち勝山を発展させたい。

議 勝山市のイベント集客力には課題がある。勝山市の歴史の半分は恐竜と共に歩んできたが、見せる、楽しむ、参加する、そのような成長型のイベントとして、恐竜祭りを開催してはどうか。

理 本年3月、ついに北陸新幹線金沢～敦賀間が開業し、特に福井駅周辺は恐竜モニュメントにあふれ、福井駅内の店舗では、恐竜ブランドのお土産品が数多く並び、恐竜を活かした観光誘客に注力することで、従来の数倍の観光客により熱気を帯びている。

本市においても、これまで以上に強力に恐竜ブランドを推し進める必要がある。本市を一層「恐竜のまち」に発展させるため、全国から「本気の恐竜好き」が本物の恐竜を学ぶ機会を創出する事業の実施を検討する。本物の恐竜を学べるまちとして全国的な注目を集め、市民も誇りに思うような文化を築くため、福井県立大学勝山キャンパスの開校にあわせ、現在市が実施している「かつやま恐竜スクール」の枠組みを活かしつつ、恐竜好きの児童・生徒が全国から集い学ぶイベントの実施を検討していきたい。